

..... 技術部活動報告

1. 定期練習

(1.2) 初心者教室 (登録制)

- (イ) 受講者: 15名 (1班)
- (ロ) 回数: 15回 (1月~8月): 24回を計画
- (ハ) 平均出席者: 9人程度 (1月~6月), 3人程度 (8月)

(1.2) 初級者教室 (登録制)

- (イ) 受講者: 51名
- (ロ) 班分け: 前半2班、後半2班
- (ハ) 回数: 15回: 23回を計画
- (ニ) 平均出席者: 6人程度

(1.3) 中級者レッスン (任意制)

- (イ) 回数: 4回 (10回を計画)
- (ロ) 平均出席者: 10人程度

「まとめ」

- (1) 1月~6月は、どの班も出席者は比較的良かったが8月には極端に落ち、秋は長雨のため練習が出来なかった。
- (2) 中級者は任意制にしたこともあって、人数がばらついたことや、技術部の体制不備などから不十分な練習会になった。
- (3) 異例の長雨にたたられ、市の秋の大会が延び延びになったため、10月中旬からの練習が出来なかった。
- (4) 初級者で、申し込みながら1回も出席しなかった人が10名あった。
- (5) 各クラス共、練習パターン及び簡単な指導マニュアルは作った。だいたいそれに基づいて練習出来た。

2. 指導体制

- (2.1) 初心・初級については、あらかじめ指導員の配置が出来た。
- (2.2) 中級については、準備が不十分であった。
- (2.3) 指導法については、意志統一が出来なかった。

3. 技術部研修

- (3.1) 坂田教室を3回開き技術部の技術向上と共に練習パターンを学んだ。1回の参加者は8~10人であった。
- (3.2) 指導法の統一を目指すことは出来なかった

4. 部内大会

12月25日に紅白戦を予定したが、当日は強風のため人が10人程度しか集まらず中止した。

5. 指導者講習会

- (5.1) 市民テ主催: (1) 森教室 (12名/30名)
- (5.2) 硬庭連主催: (2) 本井教室 (16名/30名)
- (3) 森教室 (18名/30名)

6. ジュニア

- (6.1) 平均出席率 5名/19名
- (6.2) '88/11月に第2回ジュニア大会を開催した親が市民テに入っていると、その子供は他の子供より熱心であった。

1988年度広報部活動報告について

私たち、「市民テ」の広報部は、創立以来今日まで機関紙として「ガット」を発行してまいりました。

1987年5月より、それまでの久米川コートでの配布から、郵送により各会員の皆様あてに送り届けるようになりました。昨年は、毎月第1週に皆さんのご家庭に届きますよう努力してまいりましたが、若干の遅れを出したこともあり、反省致しております。

内容については、運営委員会の報告を必ず載せるとともに、会員の動静はもとより、春・秋の大会やジュニアの試合結果なども詳しく載せました。また、'88年は、「私とテニス」を連続して掲載し、会員のテニスとの出会いや楽しみ方・技術向上への取り組み方などを書いていただきました。

反省点の1つに、広報部会を年3回予定していたにもかかわらず、1回しか開けなかったことで、忙しかったとはいえ来年度に課題を残してしまいました。

最後になりましたが、各クラブから選出いただきました広報部員の方々は、お忙しいところにもかかわらず「ガット」の作成に心をくだいていただきまして、誠にありがとうございました。

作成者一覧表

担当月	'83	4	5	6	7	8	9	10	11	12	'81	2
クラブ名	美住	恩多	美住	東住	恩多	本町	本町	青葉	東住	青葉	美住	恩多
名前	平沢	黒岩	坂本	阿萬	上野	江下	湯浅	江原	河口	藤原	吉田	長岡

*. お名前を掲載して、お礼にかえさせていただきます。



事務局 広瀬

1988年度 事務局活動報告

<63年度総会指示事項>

- 1. コート増設・補修について
コート増設については、地価高騰の折りむずかしく、次年度以降への課題として残った。コートの補修、整備については、施設課への申し入れにより、駐輪場の新設、夏場の雑草刈り取り、くずかごの整備等やってもらった。
但し、駐車スペースの削減についてはやむを得ないものとはいえ、不便をしている。
- 2. クラブ編成について
東住クラブの会員数減少による運営上の諸問題の解決
運営委員会に於て検討の結果、次の通りの結論となった。
(1) 役割分担の均等化の問題解決が先である。
(2) 再編成については次に考える
1989年度の東住クラブのグループ分けはAグループ1個のみとし運営する。

<一般活動>

- 1. 恩多コートに於けるボールの管理
市への交渉中に、ドングリ・クラブ阿部川相談役の好意で、ドングリ・クラブの物置に置かせてもらった。
- 2. テニス保険の継続加入
1989年度も前年同様の保険契約に加入した。
1989年1月1日~12月31日まで、全員(283名)加入済みです。
東京海上火災保険(株):
保険料 384,880円(1人当たり1,360円)
保険内容 第三者に対する賠償責任 5,000万円
自分自身の障害 200万円
テニス用品の損害 5万円

<参考>

63年度の保険利用状況
11件 保険支払い額 35万円払込保険料(36.5万円)
(11件の内訳は5件がラケット破損、傷害事故が6件)

1989年度広報部活動計画について

昨年度の反省にたつて広報部の活動計画を下記の通りとしたい。

1. 機関紙「ガット」の発行について

- (1) 毎月始めの土・日曜日までに必ず会員の皆さんに届けられるようにする。
ニュース、原稿集めなど出来るだけ早めに行動して、早期編集を心掛ける。
- (2) 運営委員会の報告、会員の動静など
運営委員会の報告は、必ず載せるほか、各地のテニス大会での会員の活躍ぶりや、住所変更、外国への長期出張などの情報 e t c . . . は、出来るだけ詳しく載せたいので、各クラブの広報部員の方などへお知らせ下さい。
(簡単な書式(カードタイプ)を久米川コートに常備します。)
- (3) 「私とテニス」欄
今年も連続して掲載できるよう努力致します。原稿の要請があった場合、会員の皆さんのご協力をお願いします。
- (4) 「新入会員紹介コーナー」欄
今年度は、新入会員が多くコート上だけでは、なかなか交流も進まないおそれもあり、「ガット」に紹介コーナーを設けます。
- (5) 「ワンポイント、アドバイスコーナー」(仮称)の設置
技術部のご協力をえて、毎月の技術指導のポイントを掲載していきます。
なお、「テニスショップフジ」による用具指導日は、公式戦等があつて困難な場合をのぞき設置しますのでご利用下さい。

2. 広報部会について

機関紙「ガット」の内容をより良くするため、部員間の連携をすすめる編集上の悩みや問題点等を出し合える場として広報部会を開催します。

- 第1回 1989年3月末日 年間スケジュール、担当月の決定など
- 第2回 " 8月末日 編集上の諸問題について
- 第3回 1990年1月末日 '89年の反省と'90年の計画作成など

1989年度事務局活動計画

1. 基本方針

- イ. 運営委員会は毎月定期的に関き、民主的で円滑な市民テの運営をする為に努力したい。
- ロ. 技術的向上がはかれるようコートの確保をし、又会員の親睦を深めたい。

2. コートの環境整備について

コートの補修等環境整備に努力し、行政に対して働きかける。

総会検討事項

1. 財政見直しについて

63年度の単年度収支赤字決算を考慮し、次の2点を総会で検討するよう提案します。

- イ. 支出経費の削減努力(1989年度は予算案参照)
- ロ. 会費値上げの検討(1990年度以降の)

<参考> 単年度収支の状況

	61年度	62年度	63年度	89年度(案)
会費収入	3,372,159	3,122,993	3,004,286	3,191,200
支出合計	3,374,035	3,283,803	3,627,036	
収 支	-1,876	-160,810	-622,810	
次年度繰越	2,030,767	1,955,644	1,386,039	

2. 第8条休部からの復帰に関する会則の改定について

会費年払いの改定により、年度の途中で休部から復帰する場合の救済策がなくなったので以下のように会則の改定を提案します。

現在の第8条

本人の申し出により、所属クラブ会長の承認のもとに12ヶ月を単位として休会することができる。
復帰する場合は、事前に所属クラブの会長に通知しなければならない。
休会中の会費と会務は免除され、復帰に際しては入会金は必要ないものとする

改定案の第8条

本人の申し出により、所属クラブ会長の承認のもとに休会することが出来る。復帰する場合は、6ヶ月を単位として7月から復帰でき、事前に所属クラブの会長に通知しなければならない。
休会中の会費と会務は免除され、復帰に際しては入会金は必要なく、当クラブ基準のテニス保険に個人負担で加入の上、6ヶ月の会費を納入するものとする。

1989年度予算

	予 算	備 考
収入の部		
前期繰り越し	1,386,039	
年会費	3,191,200	
雑収入	32,761	
収入合計	4,610,000	
支出の部		
コート代	1,020,000	
ボール代	350,000	
団体加盟費	20,000	市原庭連
会議費	100,000	運営委員会、各部会ほか
保険料	408,000	
技術向上費	260,000	外部指導者講習会ほか
親睦費	100,000	忘年会ほか
事務局費	180,000	
渉外費	50,000	
広報費	400,000	ガット印刷費 郵送料
各クラブ運営費	314,400	各クラブ活動費 約1,200X262人(大会会員)
20週年記念事業基金	100,000	
予備費	200,000	
(実質支出)	3,502,400	
次期繰越金	1,107,600	
支出合計	4,610,000	

以上が、決定された東村山市市民テニスクラブ協議会の'88年度の報告及び'89年度の計画並びに予算です。
★★もう少しですから最後までお読み下さい。★★
* * * * *

☆★ 討 論 の 要 点 ☆★

①. 休部会員に朗報

昨年度から年1回としたことにより途中からの復帰が出来なくなっていた休部者に復帰条項改正により半年間の復帰が可能となりました。

スポーツ保険については、復帰希望者個人の負担で(会員と同程度の保険に)加入していただくことが条件になります。

私とテニス

恩多クラブ・青木 昭 (新入会員)

昔々、あの忌まわしい戦争の真直中、北九州は小倉で一人の少年が晴れて入試を突破し、中学一年の門をくぐりました。(当時小学校までが義務教育、ナニ今じゃ幼稚園から入試があら—な)彼がツと目にしたのは、校庭の一隅で白球を追う先輩達のは麗姿であり、初めて見たテニスなのです。

その頃の私には、スポーツとはお義理でさせて貰う草野球のみ、何てったってボールは明後日に投げるし、バットはどうやってもボールに当たってくれない、これでは仲間から馬鹿にされない方がオカシのよネ。だから、それを(テニス)見た途端にウンあれなら僕にも出来る、と期待に夢ふくらむ思いを持ったものです。

ところが旬日を出でずして、コートは野菜畑に変身授業も段々少なくなって隊には軍需工場に連日かり出され、テニスどころか生きていくのが精一杯の毎日となったのです。

やがて終戦、そして戦後の動乱をへて、熊本で大学2年を迎えた春、体育の授業で軟庭を正課にした時から私のテニスが始まりました。丁度40年も前の事です。憧れのテニス、それを学ぶことで単位まで貰える!爾来、卒業するまで“教室よりコートで探す方が私に会える”と認定される所となりました。

当然、取るべき学課の単位が取れないという事がおこり、1年間の留年まで経験したのですが何のその、悔いのない青春の一コマだったと懐かしんでいます。

(イヤ—両親は悔やんでいたナ)

上京して社会人となり、会社のクラブに入ったけれど、自前のコートのない所でしたから腕は落ちる一方、その中に結婚して長女が出来、そのため妻が体調は崩すして、この頃がテニスから一番遠のいた時代でした。が、入社後10年、コート付の出来たて団地に入居出来たのです。集まればみな同年輩の若い仲間たち、職場の上役の居ないところ、こんな楽しいことが有りますか!

豊島区で“このゲームを取れば区選手権は我が手に”と言う所まで行ったのもこの頃でした。

それから10年、OLTCなる硬式クラブが会社に誕生し、一寸やってみませんかと誘われたのが転向の第一歩でした。初めて持つ重いラケット、何とよく飛ぶことよ、フーン、硬式とは体力使わなくても出来るゲームなのよネ、と感じたものです。此が如何ばかり誤った認識であったかを、後年シングルスをした時痛感致しましたけど—

やがてオイルショック、仕事は忙しくなり、団地クラブ運営のゴチャゴチャを收拾したりした後、5年ほど表舞台から姿を消し、これが2回目の空期間。その中に両親が相次いで急逝したので、思い切って退職。郷里小倉に帰りました。引越し荷物そっちのけでクラブを探し、同好会が一つ、クラブが一つ、3年間双方で腹一杯楽しんで参りました。

まさに人生に悔いなしです。そして、この間にテニスとは何かを学んだ様な気がします。40年なんて全くアツという間の事です。

とまれ、次女の造反で再び東京の土を踏んだ時、目の前にあったのはこきHCTCです。1ヶ月余の待機

日数のどんなに長かったことか。これから先のことは皆様良く御存知ですよネ、でも、ヘンなオジイサンが来たゾの眼はよく覚えておくことにします。

ガットも良く出来ています。(ありがとうございます=広報部)10年の歩みも拝読して感心しました。なんと素晴らしい組織。素敵メンバー、会長・柳さんは、しっかりした役員の方々に守られて幸せですネ。こんな良いクラブに入れて貰えたのですから、心から声を大にして...

宣誓! この度、意義ある市民テに入会させて戴くに当たり、私は、会則を守り市民テ設立の主旨を尊重し、会の一員としての誇りをもって歩むことを誓います。!!!

1989・2

クラブの望ましい姿

太田 芳郎

近頃、月日の過ぎ行く速さに驚く。つい先程 年賀じょうを誓いたとおもうのに、もう年の暮れも近くになった。

子供の頃の一年は長かった。雪が降りスケートで滑り、花が咲き、ほたるが飛び、稲穂が実り、柿が彩づく。諸君は、まだまだ春秋に富み、豊かな人生行路を歩いてられるが、いつかは、誰にも私のように、いわゆる晩年が必ず訪れる。今日の一日一日が大切な人生である。

さて、私共のクラブもいつの間にか十五周年のお祝いを済ませた。人間の年に比べたら何歳位になるだろう。青年期に達したのではあるまいか。人間の成人は二十才であり、親の保護から独立して自分の責任で行動する時である。

世の中には、いろいろの人がいる。その顔が異なるように、考え方も、生き方も異なり、しかも、それぞれが人格を持ち、それぞれの人生行路に行く、テニスクラブにもいろいろの性格があり、それぞれに、人の場合と同じく正しい。そこで私共のクラブの姿、顔はどうであろうか。誰にも好まれる福福しい顔であってほしい。しかもそれは、メンバーの一人一人の心掛けで出来上るものではないだろうか。私は思う

一般のクラブは、国際的選手を養成する機関でもなく、一流プロを育てることを目標とするものでもない。そのような選手が出たとすると、それは、自然界の「自然変異」みたいなもので、誠に珍しい現象であるが、そのために「一将功なり、万骨枯れる」では甚だ困る。クラブでは家庭の延長でありたい。窮屈な金網の中の、仕切られたラインの中でボウルをせせこましく打ち合うだけのものではない。たとえ家族会員がいなくとも、家庭の雰囲気やコートを持って来てもらいたい。会員は、テニスを通しての一家族である。私共のクラブでは、創立五年目、十年目、十五年目と会員の数も増えてきた。先ずこの辺で飽和状態、これ以上の数は望ましくない、全部の会員が全部の会員の名前住所は知りあいたいものである。名前を覚えると親しみを増す、外国人は日常の挨拶でも必ず相手の名を呼ぶ、グットモーニングだけではなく、その後にミスターと名をつける。私は学校で学生の名を覚えるのに随分苦勞した。名前を覚えることが早いので同僚に驚かれたが、今もその気でいても中々覚えられない。私共のクラブ感心することは、初心者や子供の面倒を良く見ていることである。自分だけ上手になって勝つことばかり考えているのは困る。よその子供に根気よく玉出ししているパパを見ると、ホトトギスを思い出す。ホトトギスは他の鳥の巢の中に卵を産み育てさせる。老いも若きも、男も女も、みんながテニスを楽しく睦み合うことは素晴らしいことではあるまいか。それには、お互いにボランティア精神と礼儀を重んじることが大切である。